

## 特別展「川崎平右衛門-武蔵野新田開発の立役者-」開催のお知らせ

平成29年(2017) 2月7日(火)～5月7日(日)

江戸時代中期に実施された享保の改革では、さまざまな政策が実施されました。年貢増収のための大規模な新田開発もそのひとつでした。本展示では、多摩地域に開かれた武蔵野新田を取り上げ、その開発過程をご覧ください。あわせて、新田経営安定のために村名主でありながら「新田世話役」として尽力し、後に幕府代官となった川崎平右衛門の実績を紹介します。

### 1 会期

平成29年2月7日(火)～5月7日(日)

・開園時間

3/17(金)まで9:30～16:30(入園は16:00)

3/18(土)から9:30～17:30(入園は17:00)

・休園日:月曜日(ただし、3月20日・27日、4月3日、5月1日は開園)

### 2 主催

東京都 江戸東京たてもの園

### 3 共催

府中市 小金井市

### 4 会場

江戸東京たてもの園 展示室

### 5 入園料

一般 400円(320円)

中学校(都外)・高校生 200円(160円)

大学生(専修・各種含む) 320円(250円)

65歳以上の方 200円(160円)

※( )は20名様以上の団体料金

小学生以下および都内在住・在学の中学生は無料

※3月28日(火)は、開園記念日につき入園無料



川崎平右衛門肖像画(複製)/府中市郷土の森博物館蔵



武蔵野図屏風 左隻(87201313)

江戸時代中期頃/江戸東京博物館蔵

## 6 川崎平右衛門とは

江戸時代中期、享保の改革(1716～1735)の一環で、江戸幕府は江戸に近接しながらも水が乏しいため、未開発地の多かった武蔵野台地の新田開発に着手しました。しかし、年貢増収を焦るあまり強行な年貢徴収を行った結果、百姓は定住が困難となり、開発は行き詰まります。そこで幕府が選んだのが、武蔵野国多摩郡押立村(現・府中市)の名主、川崎平右衛門でした。平右衛門は、1739年(元文4)に「新田世話役」という役職を与えられ、新田村々に手厚い保護を行い新田開発を助けました。さらに新田村々の百姓たちへ助成することで、安定した収穫が得られるようになったのです。

### ■没後 250 年 多摩地域発展の立役者！

川崎平右衛門が尽力した武蔵野新田開発によって、多摩地域は大きく発展することができました。その平右衛門が没したのは明和4年(1767)のことで、今年が250年目にあたります。平右衛門による新田開発がなかったら、多摩地域の発展はまた違ったものになっていたかもしれません。本展では、武蔵野新田開発の特徴を交えながら、幕府に召し抱えられるまでに至った平右衛門の事績を振り返ります。

### ■郷土の偉人 副読本で次世代へ語られる

新田開発された地域では、学校の副読本で川崎平右衛門の功績が紹介されています。

平右衛門は1738年(元文3)に武蔵野の新田などで大凶作に見舞われた際、人々に対して私財で夫食という食料を配布しました。また、凶作に備え、寒さに強いはと麦や栗の木を植えたりと、人々のために尽くしました。そんな、人々のために行動した平右衛門は今なお多摩地域の偉人として、語り継がれています。

### ■平右衛門の功績 武蔵野から美濃・石見へ

この展覧会では、川崎平右衛門が尽力した武蔵野新田の開発の経緯をはじめ、新田を安定に導いた平右衛門の政策内容、そして武蔵野新田開発の成功によって幕府に召し抱えられた平右衛門がその経験を活かし、美濃国(現・岐阜県)や石見国(現・島根県)での農村に対して行った仁政について紹介します。

## 7 関連企画

### ■ミュージアムトーク「展覧会の見どころ」

担当:眞下祥幸(江戸東京たてもの園学芸員)

2月25日(土)・4月22日(土)両日とも14:30～

会場:展示室

### ■講演会「川崎平右衛門」

講師:馬場治子氏(元府中市郷土の森博物館学芸員)、眞下祥幸(江戸東京たてもの園学芸員)

4月9日(日)13:30～

会場:ビジターセンター内

※定員:80名(当日先着順)

お問い合わせ先:江戸東京たてもの園

担当 太田・若林

〒184-0005 東京都小金井市桜町3-7-1

電話 042-388-1811 Fax 042-388-1711